

<小難しい学芸員のやさしい小嘘>

地震など自然災害への備え

6月18日朝に発生した大阪北部の地震の揺れに驚いたり、通勤通学で影響を受けた会員の方も多かったと思います。そして7月初旬には台風7号と梅雨前線による豪雨災害（西日本豪雨）、9月初旬の台風21号による暴風と高潮による災害、台風24号と西日本では立て続けに自然災害に見舞われた夏でした。

さらに筆者は、北海道大学で開催された日本地質学会札幌大会に参加していて、北海道胆振東部地震の揺れと大停電も経験しました。地震をはじめとした自然災害が多発する日本列島で暮らしているということを再認識させられるとともに、日頃からの備えが大事だということを実感しました。この機会に、日頃からの備えについて、改めてチェックしておきましょう。

大阪北部の地震

2018年6月18日07時58分頃、大阪府高槻市南部を震源とする地震が発生しました。気象庁によると、地震の規模はマグニチュード(M)6.1、震源の深さは13kmで、大阪府北部の高槻市・枚方市・茨木市・箕面市と大阪市北区で最大震度6弱が観測されたほか、滋賀県南部から兵庫県東部までの広い範囲で震度5以上となりました。防災科学技術研究所の解析では本震はほぼ東西方向に押される形（圧縮）の逆断層型でした。ブロック塀の倒壊などで5名の方がなくなられ、全壊を含む多数の建物被害も出ました。

筆者は吹田市内の自宅マンション10階で地震の揺れを感じました。たまたま休日朝のまどろみのさなかに、スマホの緊急地震速報のサイレン音に覚醒し、「地震です、地震です」というアナウンスと大きな揺れを感じながら、「かなり大きいぞ、さあ主要動の揺れが来るぞ」と身構えたところで、揺れが収まりました。マンションでは、エレベーターが停止したほか、2棟の間をつなぐジョイント金具が損傷し、一階床のタイルにひび割れが生じました。室内ではタンスなどの倒壊はありませんでした。震源から距離があったことと、梁に固定具でしっかりと固定していたこと（図1）が大きいのと考えています。ただし東側の壁にあったサイドボードは固定していなかったために10cmほど押し出されて、中で皿が2枚ほど割れてしまいました。



図1：タンスの固定。ベッド脇にあるために、ジャッキ式の器具でがっちり固定してある。



図2：我が家で活躍したLEDテーブルライトと小型LEDライト。

北海道胆振東部地震

2018年9月6日03時07分に北海道で大きな地震が発生しました。北海道胆振地方の深さ約35kmを震源とする、でM6.7の地震で、安平町や厚真町など胆振地方東部で最大震度6強～7が観測されました。大規模な斜面崩壊が発生し多数の人命が奪われるなど、多大な被害を引き起こし、気象庁により「平成30年北海道胆振東部地震」と命名されました。この地震の発震機構は東北東-西南西方向に圧縮軸を持つ逆断層型で、震源の深さが35kmと通常の内陸型地震に比べてとても深いのが特徴です。

北海道大学を会場として日本地質学会札幌大会が9月5日から7日の予定で開催中だったために、500名以上の地質研究者がこの地震を経験し、筆者もその一人でした。地震発生時はホテルで就寝中でしたが、やはりスマホの緊急地震速報と揺れて起こされ、体感で最大でも震度5弱程度の揺れと判断しました。すぐにテレビで震源や地震の規模など地震

の情報を確認し、朝までに余震は発生するものの、ホテル内にとどまる限りは安全だと判断して、すぐにテレビ・照明を消して眠り続けることにしました。直後に停電となっていました。

朝6時過ぎに起床したものの、停電のためにテレビからの情報は入手できず、水道も断水して客室のトイレが使えない状態でした。スマホやパソコンから情報を入手し、大阪の自宅に無事を連絡すると、自宅周辺は台風21号の影響による停電が解消したばかりで、一晩LEDのテーブルライトで過ごしたことを聞かされました。その後フロントに下りて確認すると、ホテルの大浴場横のトイレだけはバケツによる給水で使用可能だとわかり一安心しました。

自然災害への備え

上の文章にもいくつか必要な備えが示されています。例えば、家具の固定や、風呂水のため置き、停電への備えとしてのLEDライトなどです。筆者は小型LEDライトを常に携帯するようにしています(図2)。紙面の都合ですべて紹介することはできませんが、この機会に地元市町村などのホームページで、防災に関する項目を今一度読み直し、自宅のチェックもしておきましょう。大阪市では、「防災ポータ

ルサイト(私たちの防災)」というページに市民防災マニュアルなど詳しく解説されています。災害ハザードマップも見て、自宅からの避難経路を再度確認しておきましょう。博物館の特別展「地震展2008」の解説書にも必要な備えをまとめています。とにかく、自分でできる対策を一つでも多く実行しておくことが大切だと考えます。自然災害をなくすことはできませんが、減災は可能です。

一方で今回の北海道胆振東部地震では、筆者を含めて旅行・出張先での被災という事態となりました。防災マニュアルでは自宅での水や食料の備蓄が推奨されていますが、さすがに旅行先では想定できません。めざとい人は地震後すぐにコンビニエンスストアに駆け込んで、いくらかの食料・水を確保したようですが、筆者は地震当日の夜になってようやくカップ麺を食べることができました。停電によるスマホの電池切れも問題となりました。ホテルでは常に充電状態を保っておくことも対策の一つでしょう。

最後になりましたが、今回の自然災害でお亡くなりになった方のご冥福をお祈りするとともに、被災からの一日も早い復興を願います。

かわばたきよし
<川端清司：博物館学芸員>